

# 文学的文章の授業づくり(その3)

## 「授業の組立と指導のポイント」

「主体的・対話的で深い学びの実現」とは言うけれど、児童生徒の主体性をうまく引き出せず、教師の発問や指示が多くなってしまいう授業を目にすることがあります。ここでは、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善のポイントを紹介します。



### 基本的な授業の組立と指導のポイント

段階	学 習 活 動	指 導 の ポ イ ン ト
導入	1 めあてをもつ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童生徒が「話したい」「書きたい」「読みたい」と思えるめあてを設定する。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の振り返りで書かせた感想等を生かす。</li> <li>・児童生徒から出た問いを生かす。</li> <li>・既習事項とのズレを生かす。</li> </ul> </li> <li>○めあては、抽象的な表現を避け、できるだけ具体的な内容にする。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・「つかむ」「読み取る」「まとめる」「深める」「工夫する」は抽象的</li> </ul> </li> <li>○本時の学習と言語活動のつながりを意識させる。</li> </ul>
展開	2 一人読み	<ul style="list-style-type: none"> <li>○読み取らせる内容、方法を理解させ、「できそうだ」という自信を持たせる。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・身に付けさせたい資質・能力に合った内容</li> <li>・言葉に着目させる内容</li> </ul> </li> <li>○話し合いの時間を確保するため、宿題にすることも考えられる。 (内容や発達段階を十分に考慮すること)</li> <li>○机間指導を通して児童生徒の考えを把握し、コーディネートに生かす。</li> </ul>
	3 ペア、グループでの交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「話したい」「〇〇さんの考えを聞きたい」と思える課題を設定する。</li> <li>○交流させることが目的ではなく、あくまでも資質・能力を身に付けさせるための手段であることを意識する。</li> <li>○考えの形成場面や多面的な見方・考え方を引き出す場面で交流させるなど、調べたことの発表会で終わらないよう留意する。</li> </ul>
	4 全体での話し合い	<ul style="list-style-type: none"> <li>○話し合いをコーディネートする。</li> <li>○児童生徒の考えを「引き出す」ことを心がける。(ゆさぶり、問い返し)</li> <li>○一問一答にならないように児童生徒の考えをつなぐ。</li> <li>○共有(分かち合う、納得する)がキーワード</li> </ul>
終末	5 まとめ、振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>○振り返りの時間を十分に確保する。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・大切な表現の場であるという認識を持ち、時間を確保し、しっかり書かせたい。</li> </ul> </li> <li>○振り返りの視点をもたせる。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のめあてを振り返らせることで評価に活かすことができる。</li> </ul> </li> <li>○本時の学習を振り返り、言語活動を通して児童生徒が身に付けたことを価値付ける。</li> </ul>

主体的な学びを実現するには、児童生徒が「話したい」「書きたい」「読みたい」と思える課題を設定することが大切です。そして、言語活動を通して、児童生徒の思いや考えを引き出しましょう。終末は、振り返りの時間を十分に確保し、本時の学びを認め、励まし、児童生徒が身に付けたことを価値付けましょう。なお、紹介した学習過程は、あくまで一例です。児童生徒の実態や単元の指導計画に合わせて工夫してください。

